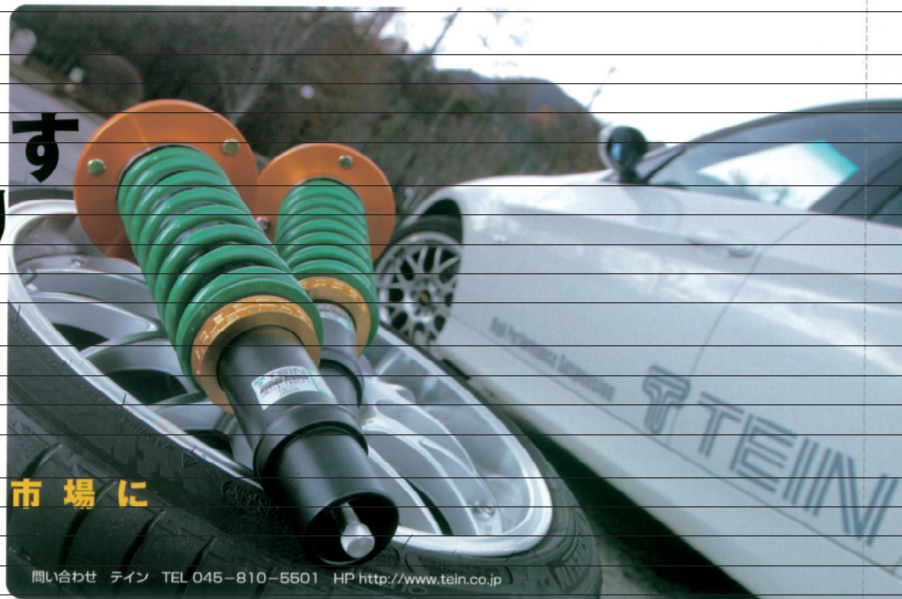


欧州車の弱点をなくす 万能足回り

国産スポーツサスペンションメーカーとして知られるが、欧州車への本格的な取り組みはまだまだなかった。しかし、ゴルフアルファ147といった個性ある足回りへの要望も少なくはないはずだ。そこで、テインはついに欧州車専用ブランドを打ち出した。その名も「ユーロ・ダンパー」のだ

テインが欧州車市場に一石を投じる
ユーロ・ダンパー



問い合わせ テイン TEL 045-810-8601 HP http://www.tein.co.jp

スポーツサスペンション!!

走りやすい欧州車がターゲット
今回のユーロダンパーは現在とどこも2007年5月1日発売の予定。主な対応車種としてはアルファ147 (15ドア)、156、アウトディTTクーペ/ロードスター、BMW116i、3シリーズセダン (E46-E90)、M3 (E36/E46)、ミニ、メルセデスベンツCクラス、ゴルフN/V、ニュービートルなどだ。価格は26万2500円〜27万8250円で、もちろんEDFCに対応可能である。



M.S.V.とは

M.S.V.採用品
Micro Speed Valveの略。サスペンションの中央、ニードル部分に流れるオイルの流量に新たにリブを設け、この部分でも減衰力を発生させることにより低速域の減衰力設定を可能としている。伸縮独立で設定可能で、テインの安心なニードル24時間、S耐などモータースポーツで培った技術的なものである。

創業から20年あまり、サスペンションのアップデートはバリエーションを誇るほどに成長したテイン。ストリート向けのラインナップを主体に、ラリーやレースのモータースポーツに積極的に挑戦し、2008年のスーパードラムシリーズを完全制覇を成し遂げたARTADENAGGT3 (ホルン) に装着されたことでも、その実力は証明済み。

そのテインが今、日本市場の輸入車大気を受け、満を持して同マーケットに名乗りを上げ、「ユーロダンパー」を送り込む。キャラクターとして、純正のアルファのスポーティさを与え、車高を落とすことでコンフォート性を損なわないこと、インチャップへの対応などを図る。また、減衰力を調整できる装置「対応」というテインお得意の仕様となっている。今回、そのユーロダンパーのプロトタイプを装着した4モデルに試乗することができた。セッティング長が少し足りない点や、ステロイドの煮詰まってきた面も見受けられたのだが、概ねそのコンセプトとおりに仕上がっていた。

ドイツ車勢は、純正では高速時のパフォーマンスは高いが、初期の動きを出しに渋さを感じたり、突き上げ感がなくなってきた。ゴルフ、アウトディTT、BMW320iともに、そんな印象を抱かせる。アルファは、もともと特性が難しいクルマだが、リアの接地性確保という点での仕上がりがまずまず。ワインディングではキビキビとした挙動が増しており、車高を下げたメリットも十分に感じることができた。ただし、ピッチングを収めることが課題で、さらなる煮詰めに期待したい。

創
ゴルフGTにはBBS製18インチアルミホイールを履き、タイヤサイズは225/40-18だ。フロント、リア共に4kgf/mmのバネが組み込まれる

アウトディTTクーペのグレードは118T、18インチインチャップされ225/40-18を履きこなす。バネレートはフロント5kgf/mm、リア3kgf/mm

320iはフロントバネレートは5kgf/mmにアップされているが、リアは8.7kgf/mmと純正の8.8kgf/mmよりダウンされている

フロントにダブルウィッシュボーンを持つアルファ147T12.0ツインスパーク。バネレートはフロント5.0kgf/mm、リア2.5kgf/mm。前後とも215/45-17サイズを履く

Tein

TEIN NEW RELEASE

あのテインが欧州車向けにサスキットを開発 現在セッティングの最終調整段階中



室内で減衰力の調整が可能 画期的なシステムの採用は大きな期待を持たせる

国産の足回りメーカーとして知られるテインが、待望の欧州車用のサスペンションキット「ユーロダンパー」の開発に乗り出した。様々なモータースポーツで活躍してきた最新の技術を投入し、欧州車特有のハンドリング特性や上質な乗り味を残しつつ、スポーツ性と快適性の両立を計ったサスペンションを現在、急ピッチで開発している。

元々がアフターマーケットの分野で高い支持を持つテインだけに、当然開発中のモデルはドレスアップユーザーはもちろん、走りこだわりのユーザーを満足させるものとしてセッティングされている。純正で装着されているランフラットタイヤの硬さを嫌うオーナー、カスタマイズ思考のユーザーをターゲットに、市場のニーズにマッチさせたインチャップタイヤ&ホイールを組み込み、徹底的にテストを行ってきた。細かいデータを収集し、それぞれのクルマが持つ微妙な特性の違いを割り出し、製品化へと導く。

今回、プレス関係者向けの発表会と大規模な試乗会が開催されたわけだが、ここからさらにセッティングを煮詰めて、'07年春には正式発売される予定だ。十分な開発期間を取り、納得のいくまで製品のポテンシャルとクオリティを高めていく、その開発手法に期待せずにいられない。

機能系パーツのジャンルに、新しいメーカーが参入してくるというのは、ユーザーにとってはとてもありがたいことだ。しかも、今回発表されたユーロダンパーは、テインの誇るEDFC対応モデル。実はこのEDFCとは室内で減衰力の調整を行



うことができる画期的な装置で、国産車用としてリリースされ大好評となったテイン独自の機能。前後16段切り替えの機能を持ったEDFCは、走行中に車内からそのセッティングを変えることもできる。極端な話、サーキット走行中、コーナーごとにセッティングを変えることも可能なのだ。

発表会では、試作段階ではあるが、ユーロダンパーを装着したクルマに試乗する機会を得たので、そのフィーリングについて少しだけお伝えしたい。乗り味としては全体的にとってもマイルドな印象。この特性なら街乗りは適度な乗り心地で軽快に走れるだろう。また、車種ごとに味付けを変えていることから、しっかりとクルマのキャラクターに合わせたキットとなっていることも確認できた。走行中、EDFCによるコントロールも行ったが、これらはとても便利で、大きく走りの性格を変えてくれる。サーキットを攻め込むようなユーザーでなくても十分に恩恵が受けられるはずだ。

国産メーカーならではのハイテク機能を備えたユーロダンパーは、テインの誇るEDFC対応モデル。随時追跡取材する予定なので、乞うご期待!!



現在、テインがラインナップに加えるべく開発しているのがゴルフV、BMW320i、W203 CクラスTTクーペ、アルファ147だ。発表会で用意された試乗車からは「乗り心地はマイルドだが、攻めの走りにもついてくる」という好印象が得られた。最終仕様が決まり正式発表される製品版には、大いに期待が持たせている。